

運営方針について

【1】運営方針とは

運営方針は、各所属における当該年度の施策の選択と集中の方針を明示し、その全体像を示すものとして、全市的に策定しています。区や局の目標、使命を示した上で、それらを踏まえて、各所属の様々な経営課題や取組のうち、当該年度に何について特に優先して取り組んでいくのかについての所属長の認識、つまり所属長としての「選択と集中の方針」を明らかにします。

企業活動などで使われる「戦略計画」(経営戦略)の考え方を行政に取り入れたもので、成果を常に意識して経営課題の内容や戦略の構成を見つめなおし、経営課題の解決に近づいていない場合等には、戦略のどこに原因があるのかを探求し、経営課題の解決に向けた方向性の検討を行い、改善や新たな展開につなげるPDCAサイクルの徹底を狙っています。

(参考情報)

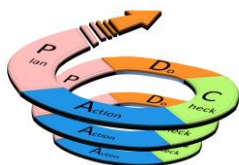
戦略計画とは、「部門ごとに、自らのミッション(使命・役割)を認識した上で、現状分析や将来予測などを踏まえ、めざすべき状態の実現に向けて解決すべき課題が何かを明らかにし、課題を解決するための効果的な方策を練り、その方策に即した具体的な行動を明らかにする。」という計画です。

「事業の実施によってめざす成果(状態の変化)の目標を測定可能な指標を用いて設定し、定期的に測定することで、達成状況をチェックし、フィードバックすること」を前提にしています。

【2】PDCAサイクルとは

PDCAは、Plan(計画)→Do(実行)→Check(評価)→Action(改善)の頭文字。下記のように、PDCAという4つのプロセスからなる活動のサイクルを繰り返し、改善を継続していくための手法が、PDCAサイクルと呼ばれています。

- 1 Plan(計画) : 目標を設定し、達成のための具体的な行動計画をたてる
- 2 Do(実行) : 計画に沿って行動する
- 3 Check(評価) : 成果を測定し、評価する
- 4 Action(改善) : 必要に応じて、具体的な行動の修正や変更などの改善処置をとる



上記1～4のPDCAサイクルを左図のように回し続けることで、継続的に施策・事業の改善に取り組み、常に向上を図ることが重要です。サイクルごとに螺旋を描くように向上させるということから「スパイラルアップ」と呼んでいます。

PDCAサイクルでは、Checkが重点だと思われがちですが、最も重要なのはPlanの段階で、達成状況が測定できる目標になっているか、具体的な行動(手段)を落とし込んだ計画になっているかです。

【3】「目標」「使命」及び「所属運営の基本的な考え方」について

目標	区において何をめざすのか、 区の担当する分野においてめざすべき将来像を示しています。(目的) 一般的な企業では、経営戦略において目標として、自社のありたい姿を設定しますが、行政の場合、通常は、自らの姿より、市民や地域社会がどうなるかが目標になります。
使命	目標の実現のために区の担うべき役割を示しています。(手段) 使命は、区の存在意義を表すもので、経営課題に対応して戦略を組み立てるうえでの前提になります。
所属運営の基本的な考え方	区として、今年度にもどのように経営課題を設定し取り組むのかについて考え方を示しています。

【4】重点的に取り組む経営課題について

策定	重点的に取り組む経営課題	施策の選択と集中の方針として、重点的に取り組む経営課題を示しています。
	課題認識	経営課題として設定するに至った課題やその課題の解決に向けて何が必要なのかを示しています。
	主な戦略	アウトカム指標の実現のために、目標年次までの期間で最も有効と考えられる方策を示しています。
	アウトカム指標	経営課題の解決に向けた進捗度合を示すために、客観的に測定できるように数値化した指標を示しています。
評価	アウトカム指標の達成状況(定量評価)	当該年度実績を記載し、目標年次に対する達成状況を「A：達成」「B：未達成」で示します。目標の最終年度でない場合、原則として、アウトカム指標の達成状況は、最終年度の目標値と前年度数値から線形に見たときに、数値が上方にあれば達成、そうでなければ未達成となります。
	自己評価(運営方針全体の定性評価)	各経営課題の定量評価(数値化できる評価)結果を踏まえ、区長としての運営方針全体の定性評価(数値化できない評価)を行います。
	今後の方針	経営課題の解決に向け、区長としての今後の方針を示します。

【5】運営方針の策定から評価までの流れ

(例：令和6年度運営方針)

